

人間関係学科卒業生ネットワーク

別府大学文学部人間関係学科
講師 三城 大介

今年3月4日に卒業生18名、在学生3名の参加を得て、第一回人間関係学科卒業生ネットワーク総会が、学内で開催されました。

基調講演では、秋田教授が「人間関係学への探求」と題し、コミュニティ・ケアの在り方について問題提起し、続いて三城が「障害者自立支援法の概要」について報告しました。休憩を挟み、卒業生の現況報告、「仕事・生活・人間関係」をテーマにした情報交換が行なわれました。卒業生から、「老人保健施設で毎日お年寄りの部屋の掃除をしている。これでいいのだろうか?」といった仕事についての疑問も率直に出され、「掃除を通じてコミュニケーションを図ればいい」「掃除も仕事と考えるべきだ」など、活発な意見が交わられました。

卒業生ネットワークの設立は、今春3回目の卒業生を送り出した人間関係学科にとって、学科が果たすべき役割だと考えています。それは、地域福祉を取り巻く制度そのものがめまぐるしく変化してゆくなかで、医療・福祉分野を中心に対人援助職を養成している人間関係学科が、地域と卒業生に対して負うべき責務だと考えてきたからです。

対人援助職には、地域の社会資源や福祉等の制度とクライアントを結び付け、地域生活の安定した継続を図るために、コーディネート、ネットワーク、アドボケート、イネイブル・エデュケート、ガーディアンなどの機能が必要です。卒業生への情報発信は、常に地域生活を取り巻く様々な変化に機敏に反応し、福祉に関する情報を援助に役立てていくことが求められている対人援助職にとって必要かつ不可欠なものです。また、地域に送り出した卒業生に対しリカレント教育の場を提供し、卒業生の対人援助スキルの維持・向上の支援を行なうことも必要だと考えています。

また、学科には、プランメーカーとしての役割

も大切です。福祉コミュニティとして県内それぞれの特質に見合った福祉プランの創造、効率的な運営が行えるように、様々な角度から地域福祉を学際的に検証し、様々なプランを提起してゆくべきでしょう。

今後、卒業生ネットワークは、毎年春と夏の年2回の総会をおこない、第2回総会は、8月9日を予定しています。奇数回を土曜日を実施し、偶数回を平日に行なうことで、多くの卒業生の参加を呼びかけ、ネットワーク化を図っていくつもりです。

私たちは、生きている限り、必ず誰かと関係しながら生活しています。人間関係を結ぶのは、なにも対人援助職という特殊な業種に限定されたものではありません。卒業生は、県内を中心に、福祉医療系や一般企業などさまざまな業種で活躍を始めています。このネットワークでは、卒業生が実際の地域、職場で感じたさまざまな想いを学科に持ち帰り、卒業生と在学生、学科教員が同じテーブルで議論を重ねることに大きな価値を見出そうとしています。対人援助職に就いた卒業生を中心に、一人でも多くの卒業生とネットワークの中で繋がってゆきながら、情報交換を重ね、人間関係について論議を深めていけることを期待しています。

